11/12 朝日 (25)

19号 記録的台風の爪痕

上陸1カ月 死者15人・不明2人

東日本を中心に大きな被害をもたらした台風19号の上陸から、12日で1カ月になる。県内の死者は計15人、行方不明者は2人。家屋の被害はいまも増え続けている。横浜地方気象台によると、台風19号は県内を1時間余りで通過し、深い爪痕を残した。専門家は、今後も同規模の台風被害があり得ると指摘する。

台風19号による県内の死者は15人、不明者は2人。10日になって、相模原市緑区牧野の土砂崩れの現場から、行方不明となっていた夫婦のうち妻（当時63）の遺体が見つかった。同区ではこのほか、車が川に流されて一家4人が亡くなったほか、キャンプ場経営者の男性（同82）や、土砂崩れに巻き込まれた女性（同75）が死亡している。川崎市高津区では、水没したマンションにいた男性が死亡。川崎沖での貨物船沈没事故では7人が死亡、1人が行方不明となっている。また、県内での重軽傷者は計40人を数える。

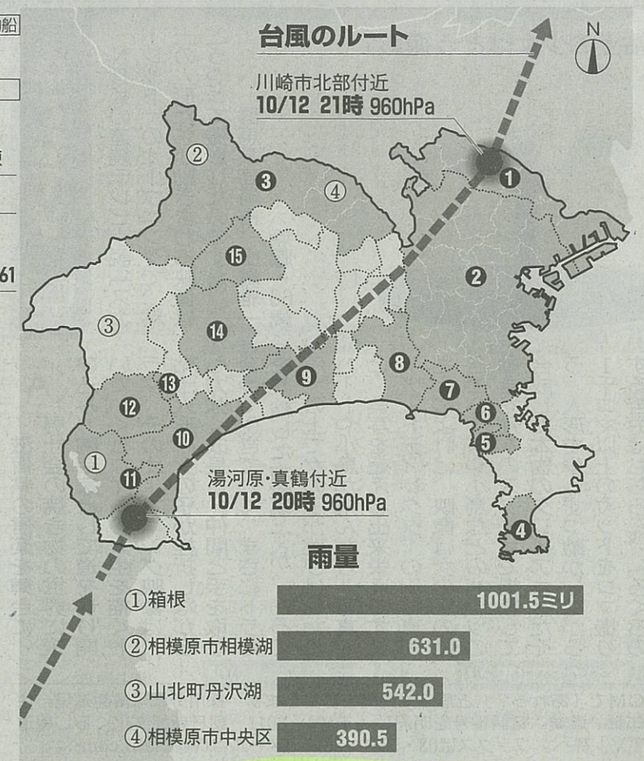
一方、浸水被害が大きかった川崎市高津区と中原区を中心に、住宅被害の件数は今も増え続けている。県による台風被害のまとめ（8日時点）では、県全体で全壊が47棟、半壊が608棟。床上浸水は722棟、床下浸水は498棟に達した。崖崩れも、相模原市を中心に189カ所で起きた。

横浜地方気象台によると、台風19号が県内に入ったのは10月12日午後8時前。大型で強い勢力のまま静岡県の伊豆半島に上陸し、湯河原、真鶴両町付近から湘南、県央地域を抜けて横浜、川崎両市北部を通り、約1時間後の同9時過ぎに東京都へ抜けたとみられる。横浜市中区の同気象台では午後8時32分に43・8㍍の最大瞬間風速を観測。1938年に統計を取り始めてから、同気象台で観測された値としては史上3位の値となった。

台風19号では、気象庁が初めて県内の市町村に大雨特別警報を出した。10月12日午後3時半～同8時50分に、土砂災害が多発した相模原市や箱根町など計13市町村に出した。いずれも翌13日午前0時20分に解除されたが、箱根では降り始めからの雨量が1千㍉を超える記録的豪雨となった。

同気象台は「特別警報が出てからの避難では遅い。普段から避難の仕方を家族で話し合うなどしてほしい。『想定外』の被害が発生し得ると考えて十分な警戒を」と呼びかける。

（岩堀滋）



県内の被害状況

県内市町村と県警本部から寄せられた情報をもとに県がまとめたデータなどを踏まえて作製した。家屋はすべて住宅で、一部破損は含まない。雨量は降り始めから10月13日午前6時までの積算値を県がまとめたもので、特に多かったところを掲載した。

国内どこにでも来る恐れ

筆保弘徳・横浜国立大准教授（気象学）

台風19号は、9月の15号とともに過去最強クラスだったのは間違いない。15号は千葉県の被害が目立ったが、神奈川でも横浜で最大瞬間風速が40㍍を超えるなど、強風による影響は大きかった。19号では大雨が降ると事前に告知があり、その前の15号で被害が出ていたこともあって多くの人が身構え、一定の避難も進んだために甚大な被害を免れたのではないか。気象庁が声を大にして避難を呼びかけた効果はあったと思う。

日本に住む以上、こうした強い勢力の台風が国内のどこにでも来る恐れが大きいと考えるべきで、住民も甘い考えを捨て、本気で対策を考えるべきだ。そうしないと自分や自分の大切な人の命を守れなくなる。

台風は数日前から予測可能で、避難まで時間が稼げる。自分の住む場所がどんな地形で、川や水路の近くなら浸水の可能性はあるのかなど、災害が及ぶ可能性を自治体のハザードマップなどで事前に確認しておくべきだ。気象予報士や防災士の資格がある住民もいるはずで、地域ぐるみでいざという時の対策を平時から考えておくことも大切だ。

訓練通じ避難の実体験を

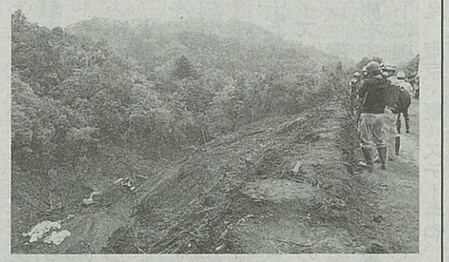
秦康範・山梨大准教授（地域防災・災害情報）

今回の台風は、昨年の西日本豪雨をはるかに超える規模の被害をもたらした。堤防やダム、遊水地などの治水機能が整い、以前なら災害の危険性があるとして人が住まなかった場所でも宅地化が進んだことが、大きな被害に結びついたとも言える。今後は（西日本豪雨があった）梅雨時ではなく10月でも、これだけの規模の台風が毎年やってくると考えた方がいい。地球温暖化による海水温上昇の影響は確実だろう。

大事なのは、一度でもいいので、訓練を通して避難を実体験してみることだ。また、早めに安全な場所の知り合いの家へ移動するなど、行政が設ける場所に限らない避難先を決めておき、自らの「タイムライン」を事前に定めて、災害が迫ったら迅速に行動することが必要だ。

従来、交通機関や企業は台風が来ても通常通りだったが、今回は計画運休や休業が進んだ。首都圏でも沖縄のように、こうして台風をやり過ごす文化を根付かせる必要があるだろう。

佐々木定子さんの遺体は、自宅が立っていたあたり（右）から約70㍍下の、重機が見える場所付近（左下）で見つかった＝相模原市緑区



相模原の土砂崩れ

夫の捜索続く、妻は発見

台風19号により土砂崩れが多発した相模原市緑区では10日、先月12日から行方不明となっていた佐々木定子さん（当時63）の遺体が見つかった。これで、台風19号による県内の死者は計15人に増えた。

同区牧野の佐々木さん宅は土砂崩れで押し流された。大量の土砂や倒木に阻まれ、捜索は難航。今月1日から重機による捜索活動が続いていた。

夫の睦さん（67）はまだ見つかっておらず、消防と警察、陸上自衛隊は土砂崩れ発生から1カ月となる12日、約60人態勢で捜索を続ける。

■復旧費など40億円盛る

相模原市は11日、台風19号による災害救助費や復旧費など約40億2600万円を盛り込んだ総額54億1500万円の今年度一般会計補正予算案を発表した。19日に開会する12月定例市議会に提案する。

本村賢太郎市長はこの日の定例会見で「被災者に寄り添い、一日でも早く安全安心な生活を取り戻せるよう、全力で取り組みたい」と述べた。市によると、住宅被害183棟以上、道路被害325カ所以上など甚大な被害が出ているが、本村市長は「全容は把握できていない」とした。

台風関連の主な歳出は、「みなし仮設」の提供や住宅の応急修理、土砂の撤去などの災害救助費約6億5700万円、土砂崩れが多発し通行止めになっている国道413号の復旧などの災害復旧費30億1700万円、被災者遺族への弔慰金などの災害援護事業費1億2千万円など。

横浜

横浜総局
〒231-8504
横浜市中区日本大通15
☎ 045-681-6101
fax 045-641-9696
mail kanagawa@asahi.com

田園都市支局
〒225-0011
横浜市青葉区あざみ野2-12-5
☎ 045-904-9010
fax 045-904-9020

川崎 ☎044-244-4306
厚木 ☎046-221-3300
湘南 ☎0466-26-4911
横須賀 ☎046-822-0211
鎌倉 ☎0467-22-0123
小田原 ☎0465-32-3822
相模原 ☎042-752-3150
平塚 ☎0463-35-3246

きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時

0	横浜	0	
0	三浦	0	
0	海老名	0	
0	小田原	0	

	北	北	
横浜			海老名
三浦	北	南南東	小田原
湿度 40%		波 1.5m	

気温	最高	最低
横浜	22度	12度
三浦	22度	13度
海老名	23度	8度
小田原	22度	9度

あす	東	南南東	
横浜			海老名
三浦	北東	南南東	小田原
湿度 60%		波 1.5m	

11月13日
（旧10月17日）

日出	6.14
日入	16.37
月出	17.18
月入	6.28

月齢16.0

県教委と県警

障害者の雇用 なお達成でき

県の関係機関などでしが発覚した障害者雇をめぐり、県教育委員県警が依然、法定雇用達成できていないことかった。8日の定例記見で、黒岩祐治知事は庁を挙げて、障害者雇積極的に取り組みたい述べた。

県の発表によると、1日時点の雇用率は、委が1・62％（法定雇2・4％）、県警は1

遺体は61歳の

横須賀の殺人事

横須賀市太田和1丁マンションの一室で7刃物で刺された男性のが見つかった事件で、は11日、男性はこの部住む無職清沢邦彦さんだと発表した。殺人事して捜査している。

捜査1課によると、さんと同居していた（24）が行方不明になおり、何らかの事情っているとみて捜しる。

これまでに室内からの刃物のほか、三男がていたとみられるもの3台のスマートフォンなどを押収したという。

ベンチャー支援の拠点開所

関内 起業家育成 市が手助け

横浜市がベンチャー企業の集積を促すため、関内地区か、打ち合わせやセミナー、交流会などに活用する。ま

ベンチャー企業成長支援拠点「YOXO BOX」＝横浜市中区尾上町1丁目